



～地域環境の保全を目指して～

令和5年1月

栃木環境レポート 第5号

栃木県地球温暖化防止活動推進センターを紹介します

12/18 第4回 ENJOY! ゴミ拾い大会 in 年末を開催



地球温暖化防止活動推進センターとは?

一般財団法人栃木県環境技術協会は、平成10年10月に制定された「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、「栃木県地球温暖化防止活動推進センター」として、平成15年7月に栃木県知事より指定を受けました。

「地球温暖化防止活動推進センター」は、地球温暖化対策のために制定された上記法律に基づくセンターであり、本センターは全国で15番目のセンターとなります。主な業務は、栃木県や県内各市町と連携・協力を図りながら、県民、事業者、各種団体へ地球温暖化の現状及び、地球温暖化対策の重要性の普及・啓発活動、またストップ温暖化のための活動に取り組む民間団体の支援などを行っています。

主な活動を紹介

- 啓発・広報活動**
地球温暖化の現状及び地球温暖化対策の重要性について、啓発活動及び広報活動を行います。
- 支援活動**
地球温暖化防止活動推進員及び、地球温暖化対策の推進を図ることを目的とした活動を行っている民間団体の活動を支援します。
- 照会・相談活動**
日常生活に関する温室効果ガスの排出の抑制等のための措置について、照会及び相談に応じ、必要な助言を行います。
- 調査・研究活動**
日常生活に関する温室効果ガスの排出の実態について、調査研究を行います。
- 情報提供活動**
地球温暖化対策の推進を図るための住民の活動を促進するため、調査の結果や情報を提供します。

栃木県保健環境センター内にあります



ストップ温暖化センターとちぎ
栃木県地球温暖化防止活動推進センター

お問い合わせ先
〒329-1104
栃木県宇都宮市下岡本町2145-13
TEL 0286-73-9101

HP紹介! 栃木環境オフィス

ホームページ公開!
環境情報やイベント等掲載。皆さまからのご意見等、有効にご利用いただければ幸いです。まずは覗いてみて下さいね。

皆さまで、新年おめでとうございませう。昨年末のエンジョイゴミ拾い大会は地元を離れ初めての中心部での開催となりましたが、多くの方々にご参加をいただき、本当にホッとしました。

私も栃木環境オフィスも2年目を迎えました。コロナ禍が続く中、室内イベントが困難な状況ですが、本年は様々な活動をしてまいりました。市や県、国等の関係団体からの支援体制も少しずつ構築されてきました。これも、ご支援・ご協力のおかげと心より感謝申し上げます。とはいえ、まだまだ小さな活動を続けていくことになるかもしれません。皆様が一緒に環境を守る大きな力があふれるよう努めてまいります。

本年も尚一層のご支援・ご協力を頂戴できますよう、宜しくお願いいたします。

広瀬

編集後記

令和5年 環境保全事業
協賛会員の事業所(敬称略)をご紹介します

未来へ確かなリサイクル 有限会社 岸興業	
NRK 日冷工業株式会社	
cafe 月～金 さくらさく	
サンプラザコーポレーション SUNPLAZA GROUP	
AJS エイジェイスタッフ 株式会社	
栃の木不動産	
(株)富山鉄工	プロ新特級AAA 株式会社 共同プロ保険事務所
EBINUMA FOODS 海老沼食品(株)	町田造園
栃木緑創	(株)三晃サービス
	小山駅西口 味自慢♪ 焼鳥てるちゃん

発行 「まもる」「そだてる」「つなぐ」

栃木環境オフィス

OFFICE 〒329-4404
栃木市大平町富田330-6
TEL 0282-43-6956
FAX 050-3458-0081

廃校を活用し 環境教育の拠点として整備!

北海道 夕張郡 栗山町 「コカ・コーラ環境ハウス雨煙別小学校」



廃校を利用した環境ハウスの前景

「自然に親しみ 環境について考える」

「今、伝えたい環境を守る意識」

開拓の町、北海道夕張郡栗山町。この歴史ある廃校を宿泊可能な施設として再生した「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」は、2010年4月にグランドオープンしました。町、地元のNPO団体とコカ・コーラ環境財団が連携し、自然環境や農業環境を活かした体験型の環境教育プログラムを構築・展開する「教育の場」として運営しています。オープン以来の利用者は7万人を数え、日本全国のみならず、世界中から、次世代を担う青少年が集い、学んでいます。(旧)雨煙別小学校は多くの栗山町民の参加による改修工事が行われ、体験型宿泊施設「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」として再生されました。2010年(平成22年)のグランドオープン以降、小学校の宿泊学習をはじめ、大学生の実習やスポーツ少年団の合宿、企業研修等、栗山町内外の多くの人に利用されているそうです。

現在はコロナ禍により若干利用者が減っているようですが、たくさんの方々の自然体験プログラムや農業体験プログラムを用意し、日帰りでも宿泊でも対応できるとのことです。この日はあいにく利用者がおりましたが、ゆっくりと視察ができましたのでご報告いたします。NPO事務局長・館長の高木さんのご案内で施設内をくまなく見せていただきました。正面玄関に入ってすぐの事務所は、元は職員室だったそうです。突き当りは長い廊下。左右にまっすぐ広がる、学校ならではの作りが以前を想像させます。上を見ると吹き抜けとなっており、学校としては珍しいと尋ねると、床面積の関係で2階の床部分を撤去、吹き抜けへと改築されたとか。歴史を感じる廊下を進むと作業室・ミーティングルーム・食堂などが並びます。朝から夕方までこちらで体験や学習が行われるそうで、教室感が残りますが廃校利用とは思えないほどきれいになっておりました。廊下の端にある階段で2階へ。2階は宿泊場所となっており、画像のように二段ベッドが設置されており1部屋で15~20人が寝られるそうです。寝具もきちんと整理整頓され、ゴミひとつありません。この施設では近隣の小川や林、農地を活用した自然体験学習や農業体験学習がメインだそうです。高校や大学の運動部、社会人の研修などもあるそうで、使用目的は多岐にわたるそうです。

この時代だからこそ、次世代の子供たちにふるさとの環境を守ることを知ってほしいと語る高木館長の情熱には、深く同意します。現在の環境教育を行っていくには、やはり拠点が重要です。そこに集う人々が力を結集し、真摯に環境を考える場所の重要性を再認識いたしました。

施設のご案内

特定非営利活動法人 雨煙別学校
〒069-1503
北海道夕張郡栗山町字雨煙別1-4
TEL・FAX : 0123-72-1696
事務局長・館長 高木政昭氏

徹底したリサイクル循環を形成 鹿児島県 大崎町

分別徹底でリサイクル率 12年連続全国1位!

行政だけでは成しえない 住民参加の環境保全意識に拍手!

鹿児島県大崎町のリサイクルメリット

- ① ゴミ処理にかかるコストが**全国平均の約半分**
- ② 発生したゴミの**82%**をリサイクル〜資源化
- ③ 資源ごみの売買で**7~800万**の利益を生み出し**奨学金制度などで住民に還元**
- ④ リサイクル事業で**40人近く**の雇用を生み出す
- ⑤ アジア有数の海洋ゴミを出す**インドネシアにゴミ減量化技術を指導、減量化に貢献**

項目	全国平均	大崎町
調査時人口	1億2800万人	13,470人
1人1日あたりのごみ排出量	925g	813g
ごみのリサイクル率	20.3%	82%
1人あたりのごみ処理事業経費	15,500円	7,700円



2019年3月に環境省が出した調査結果によると、現在ごみの処理にかかる経費はおよそ2兆円。少くない金額の税金がごみの処理に使われる現状は、地球規模の環境問題だけでなく、私たちの生活にも大きく影響しています。こうした時勢の中で、いま注目されているのが鹿児島県にある大崎町。人口1.3万人程度の小さな町は、リサイクル率12年連続全国1位。27品目の分別を行なった結果、全国平均の約20%に対して、大崎町の現在のリサイクル率は約82%です。地域住民の方々の理解のもと、各家庭や事業所、学校の教室においても、ゴミは資源という意識が徹底されています。最近では使用済みの紙オムツの資源化にも着手、更なる向上を進めています。ごみの減量化に向けた大崎町の様々な取り組みには、私共も見習わねばならない点が多々あるのは間違いありません。規模の小さい自治体とはいえ住民の環境意識に大きな拍手を送りたいと考えます。



地域住民の徹底したゴミの分別により仕分けされています



専用の容器に入れられリサイクル工場へ送られ選別



ゴミ再生の雇用も生まれています



年間で800万円の利益が還元



生ごみは大規模コンポスト装置により肥料へと生まれ変わり販売されており、無駄のないリサイクルが完成されています。



行政の努力 450回超の住民説明会を開催!

住民と企業が、スムーズなごみの分別と回収をおこなえるよう、制度設計をサポートし、収集したごみの最終処分先を確保するのが行政の役割です。1998年に、埋立処分場の延命化が決まった際、住民が分別の目的と必要性について納得できるよう、行政職員が150ある集落を周り、全部で450回以上の住民説明会をおこないました。また各集落のリーダーが代替わりをした際も、分別の目的を共有するため、毎年1回埋立処分場でごみの現状を学ぶ研修会などを実施しています。



インドネシアにおいてリサイクルシステムを指導する様子

大崎システムは海を越えて!インドネシアでもごみの減量化を指導!

「大崎リサイクルシステム」は海外からも注目され、平成24年度から有数の海洋ゴミが廃棄されるインドネシア共和国のデボック市、バリ州に廃棄物の減量化を目的としたごみの分別・排出・収集・運搬処理のシステムづくりの環境指導を始め、減量化に成功したとのことです。今後はデボック市、バリ州に加えて人口1千万人に迫るジャカルタ首都特別州でも、「大崎リサイクルシステム」の導入に関して、実証の取り組みがおこなわれる予定です。

レトロ感あふれる正面玄関



霧囲気ある廊下



宿泊室が4部屋



食堂



ミーティングルーム



浴室 男女別



洗濯室 乾燥機完備